

## ギユメ寺は祈っている ～チベット密教最高の学問寺はいかにして再興されたか～

話し手		内容
ナレ		ギユメ寺は、15世紀チベットのラサに建立。厳しい学問と修行によって、チベット密教最高の学問寺と言われていた。
ナレ		1951年、中国のチベット自治区編入に伴う政変、そして、1959年、ラサで起こったチベット人民による民族蜂起と中国軍による制圧、ダライ・ラマ14世のインド亡命とその後の混乱の中で、ギユメ寺もインドに移されていたが、建物は荒廃の極みにあった。
ナレ		この映画は、1990年にギユメ寺を再興し、その後も20数年に渡って現地を訪れ、支援を続けている一人の日本人 平岡英信氏に映画監督 西澤昭男とスタッフが同行し、取材・撮影したものである。

話し手		内容
	テロップ	2007年8月 早朝5時
	テロップ	南インド フンスール ギユメ寺
	テロップ	タイトル
	テロップ	関西国際空港
	テロップ	映画監督 西澤昭男
西澤		先生、おはようございます。
平岡校長		おはようございます
	テロップ	清風学園 平岡英信校長
西澤		えー、夏休みということで、ちょうどお盆のシーズンでもあって、あの、関西空港も沢山の人の人なんですけれども、先生方はインドということで、しかもあの南のフンスールですか。ギユメ寺というお寺にね、行かれるわけなんですけれども、何回目になりますか？
	テロップ	ギユメ寺 元管長 ガンワン師
平岡校長		私はですね、22年前にはじめてインドへ参りまして、実際は25回くらいですね。
西澤		25回… 先生、どうい…こう経路…シンガポールから…
	テロップ	清風学園 平岡宏一副校長
平岡副校長		シンガポールからバンガロールへ入りまして、そしてバンガロールから車で5時間ぐらいデカン高原を南に下りまして…という場所になっています。

	テロップ	バンガロール国際空港
	テロップ	ギユメ寺管長 ロサン・ゲレ師
	テロップ	副管長 アラン・ツウルク・リンポチェ師
ナレ		日本を発って11時間半、平岡一行はバンガロール空港に到着した。
ナレ		空港には、ギユメ寺館長と副館長がそろって出迎えていた。
ナレ		この日は近くのホテルに宿泊。

ナレ		翌朝、バスでフンスールに向かう。
ナレ		人口400万人 インドIT産業の中心都市として名高いバンガロールの市街地をすぎると昔ながらの町や村が続く。
ナレ		ジャングルを切り開いた細い道路に入ると、そこはチベット人居住区だ。

	テロップ	ギユメ寺ゲート
ナレ		昼食をはさんで6時間。

ナレ		バスはようやくギユメ寺に到着した。
ナレ		真っ先に平岡を出迎えたのは、「ゲクー」といわれる生活指導の責任者。
ナレ		「タシデレ」「カタ」と呼ばれるシルクの布を相手の首にかけ、額をつけあって挨拶する。
ナレ		つんできた花を手渡す僧もいる。
ナレ		彼らは平岡を、尊敬と親愛の情をこめて「パーラ」と呼ぶ。
ナレ		「パーラ」とは、「父なるもの」という意味だ。
ナレ		先発隊のスタッフが、監督から「一番若いを僧を探しておくように」と指示をうけて見つけていたトンジョがいた。そしてもう一人、デレク。
	テロップ	トンジョ(8歳)
	テロップ	デレク(7歳)
ナレ		ゲートから、宿泊するゲストハウスまで、400名を超える僧達が一列に並んで一行を歓迎する。
ナレ		僧の中でチベットから来た人はおよそ半分。
ナレ		インドに住むチベット人や、外国から来た僧が半分以上を占めるという。
ナレ		最後に挨拶するのは、顔なじみの高僧たちだ。
ナレ		今年も元気にお会いできましたね。</>
ナレ		チベット密教の法を守るために、かつて命がけでヒマラヤをこえてここまでやって来た僧たちだ。</>

ナレ		一行が宿泊するゲストハウスは、海外の篤志家からの支援で建てられた。
ナレ		お湯が出ないことをのぞけば、結構快適な宿舎だ。
平岡校長		あーどうもありがとうございました。
ナレ		平岡は、大阪の私立の名門、清風高校の校長である。
ナレ		清風高校は、多数のオリンピック選手を輩出する一方
	テロップ	写真提供／清風学園
ナレ		有名大学への進学実績も高い、
ナレ		いわば文武両道の名門だ。
	テロップ	故 平岡岩峯氏
ナレ		創立者の父、岩峯氏は、高野山真言密教の大僧正であった。
	テロップ	高野山
ナレ		平岡のギユメ寺支援も、父から続く仏教との深い縁によるものであったかもしれない。
ナレ		宏一副校長はチベット密教研究のために、かつて2年間この寺に留学した。
ナレ		その副校長が、旧本堂で砂絵曼荼羅の制作をしている、という。案内してもらった。</>
西澤		砂絵曼荼羅といえば、平岡先生がギユメ寺にご縁になったのは、砂絵曼荼羅を求めてこちらへ来られたと聞いているのですが。
平岡校長		あの、実はまだ日本に砂絵曼荼羅の紹介がほとんどなくてですね、種智院大学の先生が、ここにあるということを見つけれましてですね。
西澤		ええ。
平岡校長		で、私はその先生に連れられてここへまいりました…
西澤		ああそうですか。 ど、どうなっているんですか？これは。
平岡副校長		これはですね
西澤		はい
平岡副校長		あの、虫が入らないためにですね。沢山の虫がおりますし… それで虫が入らないようにこういう加工(?)をしています。
西澤		ええええ、ああそうですか。 ここで今何人の方ですか？
平岡副校長		4人で、やっています
西澤		4人の方ですね。ああ、そうですか… はい、じゃあ…
平岡副校長		どうぞ。

西澤		おー…すごいですねえ 映画とか絵とかでは拝見したことがあるんですけどね、実際のは初めてなんで… うわあ。すごいですねえ。
平岡校長		このギユメ寺のですね 砂絵曼荼羅は非常に厚いんです ほとんどよそで見られるのは薄い薄い砂絵曼荼羅ですよ。
平岡副校長		この厚い砂絵曼荼羅は、今校長がお話しましたように、ギユメ寺独特のもので ギユメ寺を建てたですね、 シェラウセンゲの時代から、こういうことをやっているということでした。
西澤		ああそうですか。 今なんかすごいあの…何というか、腰まげてねえ、大変に集中力でやっておられるけども これはあの、もうこういう専門のお坊さんでいらっしゃるんですか？
平岡副校長		いや、基本的にはですね、ある程度のクラス以上の僧侶はこれを全員やらなくてはいけないということになっています。
西澤		じゃあ、授業として専攻…教えてこられるわけですね。
平岡校長		そうですね。 で、これはみんなルールがありましてですね、 色とか形とかみんな仏さんをそれぞれ表しているんですね。
平岡校長		で それをもとにして、あの、皆勉強していくわけですね。
西澤		へえ そうですか。 なんか一人ひとり…ほとんど同じ…でもないですか？違うもの…ですかね？それぞれ…
平岡校長		今は あれは いろんな飾り物のところをやっておられますね
西澤		これはどのくらいかかるんですか？これ全体作られるのに
平岡副校長		通常であれば一月かかります
西澤		一月…ああそうですか。じゃあずっと詰めて
平岡副校長		そうですね
西澤		ねえ、大変なものですね。 これは、まあ私なんかあんまり知識がないもんですからあれですけど、目的っていうか、どういうことで作られるんですか？
平岡副校長		目的はですね、これはまあヤマンタかっていう仏様の曼荼羅なんですけども。 まあヤマンタかっていう仏様をですね、瞑想する際に、自分の瞑想がより確かなものになるように ということですね。 こういう曼荼羅を実際つくって、そこへ、自分が仏様が実際降りてくるということをですね、 観想…自分でイメージして、そういう中で修行していくための、ひとつのまあとツールです。
西澤		ああ そうですか。
平岡校長		それとですね。もうひとつ我々が灌頂を受けるとか、そういう時には、この中入っていくわけです。 で、あの入り口とか…
西澤		ああ そうですか これつくられたものは、どっか展示されたり…
平岡校長		いや、もう普通は、これは、そういう行事が終わりますとすぐつぶして
西澤		つぶしてしまうんですか
平岡校長		ああ。そうして、このつぶれたものをですね、川とか池に流して… はい
西澤		はあ そうですか。 なんかせっかく、それだけの時間で作って、作られて、すぐに壊して流してしまうのというのはなんかもったいない…
平岡副校長		そうですね。
西澤		気がしますが。
平岡校長		あの、執着しない というそういう教えであるんだそうです。
西澤		へえ ああ そうですか。

平岡校長		私は これをやられた皆さん方には、つぶすときにどういう気持ちになるかっていうとやっぱり、感無量のものがあるといっておられましたね。
西澤		そうですね。これだけ一生懸命ねえ、作られて一ヶ月 作られて ねえ。その後 壊して流してしまうというのは 本当にそういうことなんでしょうねえ。

	テロップ	【ギユメ寺本堂】
ナレ		次に本堂に案内してもらおう。
ナレ		かつて、平岡が3年以上かけて再興したギユメ寺は17年もたったとは思えないほど美しく、華麗にそこに存在していた。
ナレ		建築は日本の大手建設会社の全面協力で完成したが、細かい装飾はチベットの僧が施したという。</ナレ>
西澤		えーと、先生が このギユメ寺の再興をご決意されたというのは1986年ですか？
平岡校長		そうですね。
西澤		あの 確か校長先生になられたのが85年ということで まあ わずか ホント1年目ですよ。
平岡校長		そうですね
西澤		本当は学校の一番大事な 大変なときじゃなかったかと思うんですが。 まあ ギユメ寺にこられて…、そして はじめは いわゆる旧ギユメ寺で…、助けてほしいというようなお話があったわけですか？
平岡校長		あの一 砂曼荼羅がどんなもんかという勉強のためにこちらに来てですね それであの おりましたら、副館長さんが私のところに来られてですね、「実はダライラマ親下の命令で私はここに赴任しました。その赴任の理由は、このお寺の復興にあるので、ひとつ協力してもらえんか」という申し出がありました。
西澤		ああ そうですね
平岡校長		それがキッカケなんです。
西澤		宏一先生もそのときも一緒に？
平岡副校長		ええ おりました。 ちょっと無理かなと思ってですね、引き受けるんですね、どうなるのかなと心配いたしました。
西澤		で、ズバリもう引き受けられたようなかんじだったんですか？
平岡副校長		そうなんですよ。すぐその場で了解しましてですね ぼくは大丈夫かななんてすごい心配しました。
西澤		ああ。それは平岡先生、どういうあれだったんですか？突然のひらめきみたいなもの、あるいは絶対これは自分がやらなきゃというのがあったんですか？
平岡校長		あー 一つはですね あの チベットで修行されて勉強された高僧が沢山ヒマラヤを越えてここへ来られてですね、もうどんどんどん年をとられるとまあ、衛生状態も悪いですし お亡くなりになるんです。  で、これはもし ここのお寺がつぶれたらチベット密教の一番大事なお寺がですね、なくなってしまうことはチベットの文化の失墜になると ゆうようなことで、これはどんなことがあってもせないけないんやないかな、とチベットのひとのためにですね、まあそういう風に思いました。  これができてですね、ダライラマ親下が落慶のときに来られて、まず開口一番私たちに言っていただいたのはお経がまあ 非常によく聞こえるし、とってもいい。非常にほめていただきました。
西澤		ああ そうですね。
平岡校長		非常に戒律の厳しいお寺で、僧侶になるための階段…段階がありましてですね、もう最後の段階で僧侶になった人たちしかこれへ入れない。  で、もしくはその僧侶になった後、戒律をやぶることがあったら、地獄へ落ちるっていうくらい、まあ非常に厳しい戒律がありまして。最初皆いろいろ修行をするんですが、途中で厳しいためみんな去っていくんですけど…
西澤		うーん。なんかね、ずいぶんやめられるそうで…
平岡校長		これはほんとのエキスパートばかりが集まるんですね
西澤		うーん なるほどね なんか、ダライ・ラマ法王親下がそこにおられるような
		ああそうですね

平岡校長		こちらの像がですね ギュメ寺を建てられましたジスシエラウセンゲです。 シエラウセンゲがですね、1433年にギュメ寺を建てられました。
西澤		これはあのチベットの…
平岡副校長		そうです。 チベットの、あちらの、ソンカパのお弟子さんです。 これが、ソンカパです。ゲルク派の回僧です。
西澤		本堂の方では、例えばどういう風な行事…これはまあ全体の…お経をあげられるときですけども
平岡校長		試験は全部ここで
西澤		あ、試験をやるんですか。ふうん…
平岡校長		これはね、試験も大変です。自分の弟子が上へひとつあがるかどうかいうときにですね、 もう師匠がつききりで指導しましてですね、そしてこの問答でやっぱり
西澤		ええ
平岡校長		試験受けるんですがね 影でもう、師匠が震えるぐらいですね真剣になってますね。 だから、師匠というものは大変弟子思いであると同時に 全責任を持っているわけですね。 で、もし滑ったらはおまえの責任やということになります
西澤		まあ、でも本当に先生と生徒のありかたっていうのはほんとはそんなような 感じで無いとね、いけないですよ
平岡校長		命がけ…のような感じですね

平岡副校長		こちらがコンカンというですね、守り本尊のお祈りの部屋です。
平岡副校長		ここでは常時、まあ例えばですね 家庭で困ったことがあったり、何かそれから災難があるようなこと、 あるいは天災があるようなことがあったらですね、ここで数人のお坊様が 場合によってはですね、 夜中中寝ずにお経をあげたりします。ここはどちらかというとそういう秘密の部屋、守り本尊の部屋です。
西澤		ああ そうですか
平岡副校長		はい。ですからですね、本尊のですね、一応外から見えないような形になっています
西澤		ああ そうですねえ
平岡副校長		で、これはゲルク派全体のですね 守り本尊になります、ヤマンタカです。  で、ここがですね、こちらがギュメ寺独自の守り本尊でありますタムチェンという仏様です。 これはギュメ寺だけの仏様ということになっています。

ナレ		本堂の二階には、ダライラマダライ・ラマ法王の部屋。
ナレ		他に説法など様々な儀式を行う部屋がある。</>

平岡校長		その…昔の人が 極楽浄土っていうのは お寺では方々でお経が聞こえて花が咲いて鳥が鳴いてということを書いて お経に書いてありますが
ナレ		向かっているのは瞑想室だ。
ナレ		寺の一番奥にある。
	テロップ	瞑想室
ナレ		密教では、仏を自分の体に呼び込み、仏と一体となって修行することが重要だが 瞑想は、そのための最も大切な業法といわれている。<>
西澤		ずいぶん広いんですね

平岡校長		お寺を建てる…本堂をたてる時にですね 私はですね 本堂だけではだめだと いうのでですね、瞑想室もつくりたくないということをお教えるんですよ。そしたら、そのときの館長猥下もそのときの高僧もみんな泣かれるんですよ。よろこんで。
西澤		うん ああ そうですか。
平岡校長		あの そんなことまでやってくれるのか…という いまだに私はそれを思い出すと胸が詰まるんです。修行する場をやっぱりつくってあげないとお経だけではいかんと思ひましてね。  チベット密教に一番大事なのはこの瞑想なんで、瞑想によっていろんなレベルが上がってね  昔はひとつだけあったんですね
西澤		ああ あの もとのギユメ寺のね はい。
平岡校長		で、ぼくはあれ見てですね。一人…あそこへ一人入っていられると他の人瞑想できない。  で、その1日2日やなくて、あれ何年もっていう人がいますからね。  順番待ちも大変だし、そういうことでは業ができないんじゃないかなと思ひましてね、瞑想室もわれらの力でやらせていただきますっていうことを…  今ですね途中の方が、10年間の瞑想に入って、今10年超えたそうです。
西澤		へえー ああ そうですか じゃあ同じ部屋で？
平岡副校長		同じ部屋で10年間ですね 92歳だそうです
西澤		はあー そうですか
平岡副校長		ああ この部屋ですね
平岡副校長		で、ダライ・ラマ法王様がですね この3年の業がとぎれてはいかんとおっしゃっているそうです。ですから常にこの中では3年の業をするものがあるように ということをおっしゃっていると。ただ、誰か強制的に入れられるということではなくて、みんな自分で決意をしてここに入ってくるということです。
西澤		一応最短が3年間という
平岡副校長		いやいや、3ヶ月というのものもある
		(現地の会話)
平岡副校長		2ヶ月・1ヶ月・3ヶ月もあるということです
平岡副校長		そしてここは、瞑想室にいる人たちのみんなが集まってお経をあげるところです…
西澤		ああー そうですか

	テロップ	【旧本堂】
ナレ		旧本堂は、本堂の裏手にある。
ナレ		この建物も平岡の支援で修復された。
	テロップ	立体曼荼羅 ※曼荼=真実 羅=所有する
ナレ		曼荼羅とは、マンダ ラ「真実を所有する」つまり、真実そのものを表したの…という意味だ。
ナレ		仏教には、曼荼羅のように 宇宙の真実を文字ではなく色や形で表現し口伝…つまり口から口へと伝えていく密教と、文字で表された教典に基づいて修行をする顕教とがある。
ナレ		ギユメ寺はこの両方を学び修行できる寺として特別な存在なのだ。
	テロップ	【図書室】
ナレ		およそ2500年前、仏陀によってとかれた仏教は、その後1000年以上にわたる歴史のなかで84000巻もの経典となった。
	テロップ	ダライ・ラマ14世 出版物
	テロップ	【資料室】
ナレ		その教えは、インドから西域、そして中国、日本などアジア各地に伝わったが、仏陀の教えが最も直接的な形をつたわり、発展・洗練されたのがチベットであったといわれる。

ナレ		夕暮れ前のしじまがあたりを支配する。
----	--	--------------------

ナレ		かつては、近くに野生のゾウが出没し、地には猛毒のコブラがひそんでいた。
ナレ		10万人をこえるチベット難民を受け入れたインド。 しかし、そこは3500メートルの高地で暮らしてきたチベットの人々にとってあまりに過酷な地であった。
ナレ		暑さと気圧の差から病に倒れたひと、コブラの餌食になった僧も数多くいたという。
ナレ		しかし、今 それら全てをのみこんで 何事も無かったかのように悠久の時間が過ぎていく。

	<b>テロップ</b>	本堂午前5時
ナレ		早朝5時。
ナレ		選ばれた僧150人による朝の読経が始まる。
ナレ		特別な日を除いて、1年を通じて行われる祈り。
ナレ		人間の幸せと生きとし生けるものの救済を願って、南インドの一隅で人知れず繰り返されている祈り。

ナレ		本堂に参加できない少年や青年層は、少し遅れて起床する。
ナレ		トンジョとデレクは、まだ寝ている。
ナレ		師匠が二人を起こす。
ナレ		トンジョはまだ眠そうだ。
ナレ		二人は師匠と先輩僧4人との共同生活だ。
ナレ		手際よく身支度をする二人。
ナレ		デレクは朝のお祈りをする。
ナレ		真夏のインドとはいえ、早朝の井戸水は少し冷たい。
ナレ		洗面を終えるとすぐに、常夜灯のもとでお経の暗記を始める。
ナレ		外で暗記に努める青年層もいる。
ナレ		食事前の祈り。
ナレ		朝食は、大麦を原料にしたパレーと呼ばれるパンと、黒茶と牛の乳から作るバター茶の簡素なものだ。

ナレ		本堂に朝日が差し込む。
ナレ		読経は続いている。

ナレ		平岡のギユメ寺再興のよびかけに、300人を超える友人知人が浄財をもって協力したという。
	<b>テロップ</b>	平岡英信一家と友人の支援によって、ギユメ寺が再興された。
ナレ		この祈りによって命を救われた 平岡は今も思っている。
ナレ		ギユメ寺再興から2年後の1992年 平岡は体調をくずし入院した。
ナレ		胃ガんで、余命半年と告げられた。
ナレ		9時間の大手術が施された。摘出されたガンはこぶし大であったという。
ナレ		伝え聞いたギユメ寺の僧たちは、手術の間中祈り続けた。そして、なけなしのお金を出し合って生きた魚を買い、池に放つという徳を積んだという。
ナレ		平岡は奇跡の生還をはたした。

	<b>テロップ</b>	<b>【学校】</b>
ナレ		午前8時。自習を終えた生徒たちが登校する。
ナレ		学校も、海外の支援者によって新しく建てられた。
ナレ		真剣な表情で学ぶ青年僧たち。
ナレ		トンジョもデレクも一生懸命だ。
ナレ		一番年少のデレクが指名された。
ナレ		続いてトンジョ。
ナレ		最後はちょっと怪しくなった。

	テロップ	中国語の授業
ナレ		中国語を学ぶのは、やがて中国人と対話したり、中国から学ぶことも多くなるという理由による。

	テロップ	曼荼羅制作の実習室
ナレ		使われている砂は、細かく砕いた石に彩色をほどこしたものだ。

	テロップ	仏典の教義を学ぶ授業
ナレ		師は仏典を朗読して生徒達に聞かせ、その真の意味を問答形式で解説する。

ナレ		授業が終わった。
ナレ		元気に帰ってくるデレクとトンジョ。
ナレ		取材陣は、二人にインタビューを試みた。
	テロップ	《デレク》
インタビュアー		故郷からギユメまでは何日かかった？
デレク		たくさんかかりました。
インタビュアー		国境越えるときって、夜とか怖くなかった？
デレク		いいえ。
インタビュアー		どうして？怖かったんじゃないの？
デレク		おじさん(僧侶)とずっと手をつないでいたから……。
インタビュアー		何でギユメ寺に来ることになったの？
デレク		お母さんとお兄さんが、行きなさいって言ったから。
インタビュアー		チベットでは、学校に行ってたの？
デレク		はい。
インタビュアー		何年生まで行ってた？
デレク		2年生まで行ってました。
インタビュアー		何で学校を辞めて、ギユメに来ることになったの？
デレク		お母さんがギユメ寺の僧侶になったらいいって言ったから。
インタビュアー		実際にギユメ寺に来てどうですか？
インタビュアー		辛くないかい？
デレク		はい……。
インタビュアー		仏教の勉強は好き？
デレク		はい……。
インタビュアー		どうして？
デレク		お母さんが喜んでくれるから……。
インタビュアー		ギユメ寺とチベットではどっちが暮らしやすい？
デレク		ギユメ寺です。
インタビュアー		なぜ？
デレク		お母さんが、ギユメ寺は暮らしやすいって言ったから。
インタビュアー		こっちに来てから、お母さんと電話で話した？
デレク		はい。
インタビュアー		お母さんは、何て話してた？
デレク		師匠の言うことを良く聞いて、しっかり勉強しなさい、と言いました。

	テロップ	《トンジョ》
インタビュアー		何故、ギユメ寺に来たの？

デレク		僕の家は、僕と妹の2人兄弟です。「2人とも学校に行くのは良くないから、男の子は、インドに行きなさい」と、お母さんが言ったので…。
インタビュアー		インドには何人で来たの？
デレク		僕たち3人と、ネパール人2人です。
インタビュアー		最初から僧侶になろうと思ってギユメ寺に来たの？
デレク		いいえ。(最初はインドの)学校に行くつもりで…。 お母さんと、故郷で僧をする叔父さんが、「インドに行きなさい」って言いました そして、叔父さんが、「インドに行くならギユメ寺に行きなさい」と言いました。
インタビュアー		チベットから家族と一緒に来たの？
デレク		ラサまでは、お父さんと来ました。 そこからは、インドへの道を知っている人達について来ました。
インタビュアー		ギユメ寺に来たばかりの頃は故郷が恋しくなかった？
デレク		…。
インタビュアー		お母さんと電話で話したことは？
デレク		あります。
インタビュアー		お母さんになんて言われた？
デレク		「師匠の言うことを良く聞いて、しっかり勉強しなさい」って…。
インタビュアー		修行の毎日は辛いのかい？
デレク		いいえ。
インタビュアー		仏教の勉強は好き？
デレク		はい。

ナレ		夕方、本堂前の広場に、若い僧たちの声が響いていた。
ナレ		問答である。
ナレ		問答は、チベット密教の最も大切な修行のひとつでもあり、学習法でもある。
ナレ		密教では、経典を暗記するだけでは十分でなく、その意味を自分で考え自分の言葉で説明できなければならない。
ナレ		学んだ経典の内容について、質問者は命題を組み立て、手をたたきながら相手に問う。
ナレ		そして、解答者の答えに対して、さらに突っ込んだ問いを発していく。
ナレ		質問者と解答者に分かれて行う問答は、経典の意味するところをより正確に徹底して理解するための訓練なのだ。

ナレ		とっぷり暮れた広場の一角で、今度は若い僧たちの読経の訓練が始まった。
ナレ		仏教では、生きとし生けるものは、車輪が回るように生まれ変わり死に変わる。
ナレ		現世の行いが悪ければ、動物界や地獄に生まれ変わることになる。
ナレ		この輪廻転生から抜け出し、仏となることを目指して若い僧たちの修行は続く。

ナレ		3日目、本堂ではいつもの読経の後、特別法要が行われた。
ナレ		平岡が支援のお金の一部を、僧たち一人一人に布施として手渡しする恒例の行事だ。
ナレ		金額は高僧も青年僧もすべて一律。管長、副管長とゲクーがその2倍という決まりだ。
ナレ		子供と若い僧の布施は学校の前で行われる。
ナレ		個人財産を持たない彼らにとっては貴重な現金で、お金の使い方も学ぶことができる。

ナレ		建物の一画で奇妙なものがつくられていた。
ナレ		魔を払う儀式が行われるのだ。
ナレ		ギユメ寺にも住むという魔。
ナレ		2か月に一度、僧たちが独特の装束を身につけ、魔に見立てた人形を焼き払うのである。
ナレ		人知を超えたもの、科学で証明できないもの…

ナレ		そうした物への恐れや畏敬の念を現代人はいつしかなくしてしまった。
ナレ		その時から、自分だけ良ければいい、何をしてもいいのだ、という自己中心的な考え方が広がった。平岡はそう考えている。
ナレ		僧たちが去り、火の爆ぜる音がいつまでも続いていた。

ナレ		パレーを焼く食事係。
ナレ		鐘の音を合図に、当番の僧たちが食器を持って集まってくる。
ナレ		部屋の人数に応じて、ライスとパレーを分けてもらう。
ナレ		この日のメインはカレースープだった。
ナレ		はじめの頃、チベットの人たちは、インドの香辛料をまったく受け付けなかったという。
ナレ		思い思いの場所で、食事を楽しむ僧たち。
ナレ		話をひかえて、静かに食べるのが彼らのマナーだ。
ナレ		食事の後の掃除は、デレクとトンジョなど少年僧の役目だ。

ナレ		トンジョとデレクが昼寝をしている。
ナレ		高度3500mのチベットから、暑いインドに来て、新たに生まれた習慣だという。

ナレ		午後、境内を散策する平岡に、スタッフが同行した。
平岡校長		ここで一番大事なのは、この蜂をですね、この蜂の巣をダライ・ラマ猊下が皆で来られたときにアレやから取ろう、と、こう、するんですよ。  ダライ・ラマ猊下が、輪廻転生で蜂になった人間がお経を聞きに来てるんだから絶対にとってはいかん、こういう風におっしゃってね。  一番の特色は下にお坊さんの部屋がないということなんです。
	テロップ	写真提供／清風学園
	テロップ	建築中の本堂
平岡校長		普通あの、チベットではですね、もったいないからということで下にお坊さんの部屋を作ってるんです、この下にね。  他の寺はみんなそうなるんです。  しかしそうした食事とかのにおいが上に上がるというので、絶対にそれは避けるべきだというのでですね、お水が全然ないんです。で、みんななどないしたか言いましたらね、  ここから2キロほど離れたところに井戸がありまして、  そこへ水を取りにいったり。  そのね、ここにある井戸も浅かったのですね、汚い汚い水だったんです。
	テロップ	写真提供／清風学園
	テロップ	当時の井戸
平岡校長		で、あの、もっと深く井戸を掘らないかん言うて、  こっから何キロか離れたところに良い場所があって、そこでずっと、その、井戸を深く掘りましてね、そしてきれいな水が出るようにしたんです。それも大分後のほうです。最初の時はもう汚い水しかなかったですね。

聞き手		先生も学校やってらっしゃって、チベットのこういうお坊さんの学生さんと、日本のまあ学生さんと、比較されてなにか感じられることって…？
平岡校長		うーん、まあ日本でも優秀なまじめな学生も多いですからね、あの、ただ真面目さにおいてはお互いに同じや思うんですがね。  ただ私は、ただまあ、すごいなあと思うのは親のそこから離れてですね。精進潔斎をしながら、こういうとこで、勉強するわけですからね。今の日本人は小学校でた、入ったとたんでしょ。  そういうの今の日本人耐えられるかな、と思うんですがね。  やっぱり仏教に対する憧れいいますか、そういうものは、あの、そういうのを生みだしてるんじゃないか、と私は思うんですがね。
聞き手		チベットのお坊さんたち、ぼくたちもですね、笑顔とか、なんかお顔が違うような気がするんですね。先生のご印象なんか
		そんな感じですね。そのとおりです。  あのね。なんともいえないあったかいにこやかな顔なんですね。

平岡校長		<p>それが無理して作ってる顔と違うんですね。本心から出てるから。無理がないですね。</p> <p>だからお坊さんに接するだけで心が癒されるんですね。だからすごいなあって思うんです。</p> <p>やっぱり行がずっと、もう、体の中へ、まあわかりやすい言い方したら、体の中にですね、お経がいっぱい入ってる感じなんですね。そういう感じです。</p> <p>それからね。もうあの九十… 一番年とったあれは…九十こえてられたですかね…みんな若いですわ。</p> <p>うん。ぼくよりか若い思ってた人はみなぼくよりか年上…</p>
聞き手		そのお顔と言うかそれは昔も今もかわらない
平岡校長		<p>かわらんですね。</p> <p>この間も、あの昨日ですか、昔の事務長と話してたんですが、ちょっと豊かになりすぎてね、</p> <p>これ以上、このお坊さんが住んでいる住居ですね、これ以上立派なもんにしたらだめだ。あの墮落する言うてんですね。</p> <p>だからこれが限界やゆうてました。</p> <p>他のあの迎賓館なんか実にもうホテル並みに立派になってますでしょ。</p> <p>だから、ああいうふうに、みんなしたらええように思うんですがね。</p> <p>それしたらだめだって、あの、墮落していく言いますね。</p> <p>だからもう、これ以上のことしたらいかんて言うてるんです。</p> <p>ちゃんとね、そういうのわかってられるんですわ。それはすごいなあと思いますね。</p>
聞き手		つい流されちゃいますね
平岡校長		<p>ああ全部ね。楽なほう楽なほういくからね。</p> <p>きびしいですね、ものの見方が。みんな。私は僧籍にもあるんですが、</p> <p>僧籍は実は“えいしん”言うん、でふつうのなまえは“ひでのぶ”なんですね。僧籍で“えいしん”。</p> <p>はい、えいしんは最低ですね。自分でもわかりますわ。</p> <p>来世生まれかわらなあかな思っってね。</p>
聞き手		なんか先生がこちらにこられるのは、毎年
平岡校長		1回ですね。
聞き手		1回。で、なんか結局維持をしていくとか、大阪出張するために、毎年お顔出されて、というのも拝見したんですけども。
聞き手		先生の中で病氣されたあとに、少しく意識が変わったというのをちょっと伺ったんですが、そういう
平岡校長		<p>それにね。もうあの皆さんの祈りによって命頂いた思ってるんでね。もう、皆さんのためにこの…。</p> <p>私はね(びょう…)手術室に入るときにですね。この世でまだ仕事があるんなら、役に立つんなら、命くださいと。</p> <p>それでもう。この世で仕事が終わったら、どうぞお召してくださいということを、こうだいさんをお願いしましてね。で、手術入ったんです。</p> <p>だからまあ、生きてかえってきたんでまだ仕事があるんやないかなと、まあ思ってるんですね。</p>
聞き手		じゃあもう先生は来れるかぎりここはきつづけ…
平岡校長		<p>ああもうずっと来たいと思っります。</p> <p>でまあ私はね、たぶん死んだらここへ来るやろう。</p> <p>僕はこの前、あの言うたらですね。ここの館長がね。</p> <p>お前生まれ変わったら絶対ここに来よるで。まあごつつしぼったるから覚悟せい…と。(笑い)</p> <p>そやけどお前スポンサーやからちょっと緩めたるかな。(笑)そんな言うてはりました。大笑いになりました。</p>

ナレ		寺には時折、インド人の物売りがやってくる。
ナレ		買い食いは青年僧たちのちょっとした贅沢だ。
ナレ		こちらの僧は、値段交渉をしているのだろうか。
ナレ		寺にはコンピューターもあるが、青年僧たちの情報源は、もっぱら新聞だ。

ナレ		ゲートから伸びる一本の道。かつて僧たちが、苦難の末にたどり着いた道だ。
	テロップ	写真提供／清風学園
	テロップ	当時の道
ナレ		今は舗装され、托鉢、買い物、散歩と僧たちが日々行き交っている。

ナレ		仏教では世界を創った創造主は存在しない。
ナレ		この世は始まりもなく、終わりもない。
ナレ		独立して存在しているものは何一つなく、常に他のものに関係しあっている。
ナレ		そして、全てが刻々と変わり続けていく。
ナレ		釈迦が悟った宇宙、
ナレ		万物を貫く真実…
ナレ		縁起と無常の理法。
ナレ		ギユメ寺の日没は、見る者の心を、そこへと誘(いざな)う。

ナレ		4日目の朝、若い僧たちが広場に集まってきた。
ナレ		デレクとトンジョもいる。トンジョは何だか浮かれているようだ。
ナレ		先輩僧にからかわれて、トンジョが何か言い返している。
ナレ		他の寺からの若い僧もいるようだ。
ナレ		みんな少し緊張している。
ナレ		実はこの日は、約2年間の基礎学習を修了した者を、正式な僧と認める紗弥戒の日なのだ。
ナレ		干しブドウとナッツ入りのバターライスと、チャイと呼ばれるミルクティーがふるまわれる。
ナレ		剃髪の式
ナレ		最後に3人一組で、管長から説教を受ける。
ナレ		いつも明るく、ひょうきんなトンジョの目が少しうるんでいた。
ナレ		立派な僧になるように、と送り出してくれた遠いチベットの母のことを思い浮かべたのであろうか。
ナレ		次にデレクの番だ。
ナレ		記念写真を撮る僧たち。
デレク		故郷の両親に写真を送りたいです。 今日、正式な僧になれたので(嬉しいです)。
トンジョ		(故郷の人に写真を)送りたいです。 今日、沙弥戒を受けられて本当に嬉しいです。
ナレ		今日を出発点に、一人前になるには、20年近く高度な学問を修めていかなければならない。
ナレ		トンジョとデレクは、ずっとギユメ寺で修業を続けられるだろうか。
ナレ		師匠からは、はげましの言葉があった。
ナレ		「正式な僧となったのだから、管長や先輩僧の教えをよく守り、今まで以上に修行にはげみなさい。」
ナレ		スタッフの撮影機材に興味を示し、戯れる少年僧たち。
ナレ		彼らは明るく、屈託が無い。

ナレ		午後、本堂と広場の清掃が行われた。
ナレ		樹々の枝落としをする少年僧。
ナレ		別の少年僧たちは、広場の枯草を集めて窪地に捨てに行く。

ナレ		風にはためくタルチョ。
ナレ		マニ車を回す老女。
	テロップ	マニ車=1回まわすと1回お経を読むのと同じ功德があるとされる。
ナレ		信心深いチベットの人々にとって、ギユメ寺は心の拠り所だ。
ナレ		学校の向かいにある建物で、村の老人の法事が行われていた。
ナレ		難民という立場で、その地に同化しながらも、なお民族の誇りとアイデンティティを失わず、法と文化を守り、受け継いでいく人々。

ナレ		このチベット居住区の子供や、外国人の子供が通えるような
ナレ		新しい学校を作る計画があると聞いた。

ナレ		管長にインタビューを試みた。
管長		<p>そうですね。以前ダライ・ラマ法王が見えたとき、ギユメ寺院の僧侶だけでなく、世界の人々のため、人種や性別に関係なく、どなたでも勉強できる環境を作れないですかとおっしゃいました。</p> <p>僧侶たちは十分ですが、できれば一般の方のための勉強する環境を作りたい、とおっしゃいました。</p> <p>その後、ダライ・ラマ法王の所に伺って、提案を受け入れますと報告しました。</p> <p>するとダライ・ラマ法王は、建物を造るのは簡単にできるので、まずはカリキュラム作りを徹底的にするようにと指導されました。</p> <p>そして、カリキュラムを決めた後に、外国に案内を出すようにとおっしゃいました。</p> <p>外国人は忙しく、長く参加できないため、2週間・3週間・1ヶ月・1年・2年のコースを作り、長期で4～5年のコースを計画するように指導されました。</p> <p>この事に関して、首席大臣のサムドン・リンポチェにも協力をお願いするにおっしゃいました。</p>
西澤		<p>あーそうですか。このギユメ寺の中を歩いていると本当に朝から夜まで勉強する声、祈りの声がずっと聞こえてくるんですけど、このように一人ずつ自分が勉強するという空気を創るということは大変なことだと思うのですが、どのように管長猥下は指導されているのですか。</p>
管長		<p>現在、1年生から卒業するまで、13年間かかります。</p> <p>ご覧のとおり、環境は昔のままです。</p> <p>宿舎など僧侶の住まいを豪華に造ったりはしていません。</p> <p>中身である教育に力を入れています。</p> <p>もし、外見にあまり力を入れすぎたら、教育に集中できなくなります。</p> <p>ここでは、外見に囚われずに、より高い所を目指して、修行・瞑想に取り組む環境があり、それが、内面の修養に良い結果をもたらしています。</p>
西澤		<p>その点、私ども日本はですね、経済的にはすごく豊かになりました。ところが子供たちが学校に行かない、勉強しない。そういう子が何十万とでているんですね。</p> <p>そして年間の自殺者が三万人、それから親が子を殺し、子が親を殺しというふうな非常に不幸な出来事がたくさん起こっているわけですけど、どこか日本は間違ってしまったのでしょうか。</p>
管長		<p>それは宗教の影響が、だんだん弱くなったせいだと思います。</p> <p>外見上、経済的に豊かになりましたが、内面での修行がおろそかなため、自殺や他殺が絶えないのでしょう。</p> <p>宗教の教えを理解していれば、現在日本が抱えている問題も必ず減っていくことでしょう。</p> <p>経済的に豊かになっても、内面は満たされない、とダライ・ラマ法王もよくおっしゃっています。</p> <p>物質的豊かさだけで、精神的豊かさを満たすことはできません。</p> <p>内面を豊かにする必要があります。</p> <p>私もその通りだと思っております。</p> <p>そのように自殺などが起きてしまうのは、経済的な豊かさと精神の成長とのバランスが、とれていないしるしであります。</p>

ナレ		夕方、広場で青年僧たちのグループの問答が行われた。
ナレ		管長、副管長、ゲクー、そして平岡も参加している。
ナレ		問答は、いつにもまして盛り上がる。
ナレ		質問者は5人、回答者は3人。仏典の教義について、激しいやり取りが続く。
ナレ		内容は相当に難解で、部外者にはほとんど理解できないのだという。
ナレ		問答は時には(普通と特殊)、(原因と結果)、(実在的存在と観念的存在)など、哲学的な内容についても行われるという。
ナレ		質問者同士がつかみあいになることもしばしばだ。
ナレ		激しい応酬に、たまりかねて観客の僧も議論に飛び入り参加。
ナレ		白熱の議論はいつまでも続いていた。

ナレ		5日目、管長による長寿の灌頂が行われた。
	テロップ	長寿の灌頂
ナレ		平岡を始め、一行が長生きできるように、長寿の本尊と縁を結び、その力を借りて願いを叶えるという密教独特の秘法だ。
ナレ		この灌頂がつつがなく行われるように、供物をささげて魔を払う儀式が行われる。
ナレ		顕教では、長生きしたいという煩悩を修行によって抑え、そして仏になろうとする。
ナレ		反対に密教では煩悩を抑えるのではなく、積極的に認めて、それを良い目的の為に使おうとする。
ナレ		自分だけの幸せではなく、他の人々や生きとし生けるものの幸せのために、善い行いをします。
ナレ		その為に、どうか仏の力で長生きをさせてください。
ナレ		429もあるという病の元。それを体の外へ出す、と信じられている液体が皆に回される。
ナレ		そして、丸薬に見立てたダンゴが配られる。
ナレ		参加者は長寿の本尊と深い仏縁を結んだとイメージすることによって、心に独自の力が蓄えられるのだ。
ナレ		真言を受ける平岡の顔は、いつの間にか、紅潮していた。

ナレ		午後、本堂で一行と全ての僧の全体会が行われた。
ナレ		最後に平岡がスピーチした。
平岡校長		<p>日本にも色んなチベットのお坊さんがこられるんですが、</p> <p>その時にギユメの皆さん方が非常に良く勉強しているということを私に報告してくれます。私はそれを聞くたびに嬉しくて嬉しくて本当に自分のことのように喜んでいきます。</p> <p>世界は今混沌としています。</p> <p>世界が豊かになればなるほど人間の心はすさみ自己中心的に行動する人が増えてまいりました。</p> <p>その心の飢えを満たすのが仏教であり、皆様方の教えであります。</p> <p>いまこそあなた方が勉強しているチベット密教を世界の人々が求めています。</p> <p>これからあなた方の役割は、重要になっていきます。</p> <p>教えは知識だけではなく、その行動の中に現れなければ意味がありません。</p> <p>そのためにはあなた方は、より深く内容のある修行をされ、心と行動が一体となって多くの人たちに感動を与え、救済ができますよう修行に励んで頂きたい。</p> <p>あなた方の弛まぬ修行が結実して世界の人々があなた方の教えを求める時期はもうすぐそこにきています。どうかしっかり勉強して混沌とした21世紀を皆様方の力で助けてください。世界はあなた方を求めています。</p> <p>年老いた僧は、若い僧にこの大切な教えを命がけで教えてください。</p> <p>若い僧は命がけで年老いた僧から学んでください。</p> <p>年をとられた僧はどうか一日でも長く生きてください。</p> <p>私も79歳になりました。このように元気でられるのは、皆様方が一生懸命お祈りをして頂いているお陰だと心から感謝しております。</p>

ナレ		毎年一度のギユメ寺訪問を「巡礼の旅」という平岡。
ナレ		学校とは関係なく、全く個人の立場で、
ナレ		僧たちの生活費や医療費の一部までも支援をしてきた。
ナレ		何故、そこまでのことをするのか。
ナレ		後日、ダライラマダライ・ラマ法王にインタビューする機会を得た。

	テロップ	2007年 11月 三重県 伊勢市
西澤		ギユメ寺に関して平岡氏が20年に渡って支援をされていますが、猥下は、平岡氏についてどのように思われますか。
		平岡先生とは知り合ってから長い付き合いです。
		先生は思いやりのある優しい方で、

ダライ・ラマ法王	<p>代わりの無いご支援者であります。</p> <p>私の兄であるタクツェル・リンポチェの時からご協力頂いております。</p> <p>その後、特にギユメ寺院に対してあたたかいご支援を頂いております。</p> <p>ギユメ寺院はチベット社会の中で大切な寺院の一つで、顕教と密教の双方の修行ができます。</p> <p>特にグフヤサマージャの修行とは、特別に深い関係を持っております。</p> <p>それゆえ、これは(平岡先生のギユメ寺支援は)仏教全体に貢献している事を意味します。</p>
西澤	<p>2つ目の質問に行きます。戦争とかテロ、核の問題、環境破壊の問題など現在は人類というよりも世界的なレベルで、地球的規模で危機が迫っていると思うのですが、そういう中で私たちはどのような心構えで生きていったら良いのでしょうか。</p>
ダライ・ラマ法王	<p>長期的視野でお話するならば、私は世界は良い方向に向かっていくと思っています。</p> <p>しかし、現在の環境問題は大切ですし、またテロに関してもとても深刻な問題になっています。</p> <p>でも、よく考えてみると、これらは皆、我々人間が作り出した問題です。</p> <p>このような問題は人間の心に変化をもたらす事で、問題を解決できるはずで、</p> <p>長い目で見て考えて、少しずつ心に変化をもたらす事が重要です。</p> <p>そのために必要な事は、優しい思いやりの心と、世界は“相互依存関係にある事”の理解です。</p> <p>この理解が深まるほど、他国に害を及ぼす事は、自分自身に降りかかってくる事に気づきます。</p> <p>そうすれば、(全ての人々の事を考える)慈悲の心が人類全体に必要なだと、やがて実感できるはずで、</p> <p>最も大切なのは、我々の心のありようを変えていく事なのです。</p>
西澤	<p>ありがとうございました。</p> <p>21世紀は心の時代というふうに言う人もいますが、</p> <p>その中で宗教の持つ意味がずいぶん大きくなると思うのですが、</p> <p>そういう中でギユメ寺に代表されるチベット密教の役割をどのようにお考えでしょうか。</p>
ダライ・ラマ法王	<p>21世紀は、物質的な発展は非常に高い段階に進んで、</p> <p>物質的進歩によって人が得られる満足は、ほとんど限界に達しました。</p> <p>そして、そこにきて初めて、物質的進歩だけでは心の満足は得られない事に気づき、</p> <p>心の進歩に関心が向くようになりました。</p> <p>最近では科学者の中にも、心に関心を持つ者が増えております。</p> <p>医療の面においても心の重要性を指摘しております。</p> <p>そのような中で、どの宗教も慈悲について話しています。</p> <p>どの宗教も人間のためになっております。</p> <p>特に仏教は、(全てが相互依存関係で成り立っているという)縁起の法則に基づいて、</p> <p>慈悲心が必要である、としています。</p> <p>縁起の法則を説いているのは仏教だけですが、</p> <p>環境問題、健康、経済、政治、国際関係のいずれの問題も相互依存の上に成り立っているので、</p> <p>視野を広げ、包括的に物事を見ていく上で、</p> <p>縁起の法則の考え方は、(仏教徒のみならず)全ての人に役立つと思います。</p> <p>チベット仏教は古代インド・ナランダ僧院の伝統である、ナーガールジュナ哲学の流れを受け継いでおり、</p> <p>縁起と論理に基づいた教えが中心になっております。</p> <p>従って、“チベット仏教”と特別に言うのは適切ではありません。</p> <p>(論理を重視し、縁起の法則を詳しく説明する)ナーランダ僧院の伝統は、必ず人類に貢献できるでしょう。</p> <p>また、最近では科学者との交流も盛んです。</p> <p>チベット仏教のサキャ派、カギユ派、ニンマ派、ゲルク派など、どの教えも大切です。</p> <p>ゲルク派の中では、セラ・デプン・ガンデンの三大寺院をはじめとする修行の場がありますが、</p> <p>密教と顕教の双方を修行できる場として、ギユメ寺院が大切な位置を占めております。</p>
西澤	<p>どうもありがとうございました。</p>
ナレ	<p>夜、若い僧たちはいつも通り、ひたむきに経の暗記に努めていた。</p>

ナレ		トンジョとデレクは早めに切り上げて部屋へ戻っていく。
ナレ		どうするのだろう。
ナレ		部屋のわずかな明かりの中で、英語とチベット語の勉強をはじめた。
ナレ		今夜は、先輩の僧が夜食を作ってくれた。
ナレ		何をするのも一緒。トンジョとデレクはまるで双子の兄弟のようだ。
ナレ		その後、また勉強にはげむ少年僧たちに、師匠から「もう寝るように」と声がかかった。
ナレ		まじめなデレクは、お祈りだ。
ナレ		マイペース。さっさとベッドに入るトンジョ。
ナレ		長い一日が終わって、二人は眠りに入っていった。

ナレ		平岡が帰国する日
ナレ		マンダラ製作の4人は身支度をし、経をとんでいた。
ナレ		この日までの完成を目指して頑張った4人の僧たち。
ナレ		マンダラは完成したのか。
ナレ		慎重に覆いの布をはずす。
ナレ		マンダラは完成していなかった。
ナレ		スタッフの一部が、完成まで残って撮影することになった。

ナレ		4日後、ついにマンダラは完成した。
ナレ		見事に完成したマンダラ。
ナレ		マンダラはいったいどうなるのか。
ナレ		見る間に、削られ、壊されていく。
ナレ		無言でこわれた砂を集め、缶に詰めていく4人の青年僧
ナレ		僧たちは、缶と供物を持って1kmほど離れた池に向かって歩き出す。
ナレ		池にはいつの間にか、居住区の人々も加わっている。
ナレ		祈りの間に、全ての砂を池に流す。龍神が住むと信じられている池。
ナレ		最後にその池の水を汲んで帰る。
ナレ		池の水が床にまかれ、全ての儀式が終了した。

ナレ		平岡が帰国する日、少年僧は樹に登り、花を摘んでいた。
ナレ		読経を終えた僧たちがゲストハウスの前に集まっていた。
ナレ		高僧たちの顔は、心なしかさびしげに見えた。
ナレ		到着の時とは逆に、高僧たちから一人ひとり、別れの挨拶が始まる。
ナレ		平岡も高僧もたちも高齢だ。来年も元気で会えるかどうかは誰にも分からない。
ナレ		額をつけ合って挨拶を交わす高僧たちの顔は、いつもの柔らかい笑顔に戻っていた。
ナレ		お元気で、また来年お会いしましょう。心のこもった挨拶が続いていく。
ナレ		トンジョがいた。
ナレ		わずか数日の間に、トンジョの顔は少し大人びて見えた。
ナレ		デレクは、どこにいるのだろう。
ナレ		カメラには入ってこなかった。

ナレ		平岡の巡礼の旅は終わろうとしていた。
ナレ		別れを惜しむ僧たち。
ナレ		今、彼らの一部は、世界各地に招かれ、あるいは自ら訪ねて
ナレ		国や民族や宗教の異なる人々と出会い、対話し、交流を重ねている。
ナレ		彼らの祈りの声が神なき時代を生きる現代の人々の心を変え、

ナレ		世界を変えていくのは、いったいつの日のことなのであろうか。
ナレ		そして、故郷のチベットで、トンジョやデレクたちが僧として活躍できる日は、一体いつ来るのだろうか。